

Instagram「県土やまなし未来づくり」での取組 -若者がみてくれるために-

小林 弘¹・山寺 奈帆子・花形 啓

¹山梨県 県土整備部 都市計画課 景観まちづくり室 (〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1-6-1)

【論文要旨】

山梨県内におけるインフラの価値や魅力を情報発信することで、インフラへの理解を深めるとともに、新たな観光資源として県内外からの誘客や地域活性化に繋がるよう、公式Instagram「県土やまなし未来づくり」を運用している。Instagramでは、日々のインフラ情報を各事務所から収集して発信しているが、若者の閲覧数向上を図るため、本論に記載したPDCAを実践し、インフラを身近に感じられる工夫を行った。

これによりインフラに対する理解と関心の促進、建設産業の担い手確保・育成に寄与するとともに、従来「きつい・汚い・危険」とされてきた建設業の3Kイメージを、「給与が良い・休暇が取れる・希望が持てる」といった“新3K”イメージへと転換する一助となる取り組みである。

キーワード インフラの価値・魅力発信、PDCA、若者の閲覧、建設産業の担い手確保・育成

1. はじめに

当室が事務局で行っている公式Instagram「県土やまなし未来づくり」について紹介する。山梨県内のインフラの価値や魅力を情報発信し、インフラへの理解を深めるとともに、新たな観光資源として活用し、県内外からの誘客や地域活性化のための施策を総合的に推進することを目的に、「やまなしインフラ魅力発信協議会」が令和元年に設立された。その協議会のもと、県土整備部で構成された「県土やまなし未来づくりチーム」が情報発信力の強化としてSNSの運用を行っている。当室は「県土やまなし未来づくりチーム」の事務局を担っており、現在は各事務所から日々のインフラ情報を収集し、Instagramによる発信を行っている。(図-1)

本論文では建設産業の担い手となる若者に興味を持ってもらえるよう、事務局が行ったPDCAの取組を紹介する。

やまなしインフラ魅力発信協議会

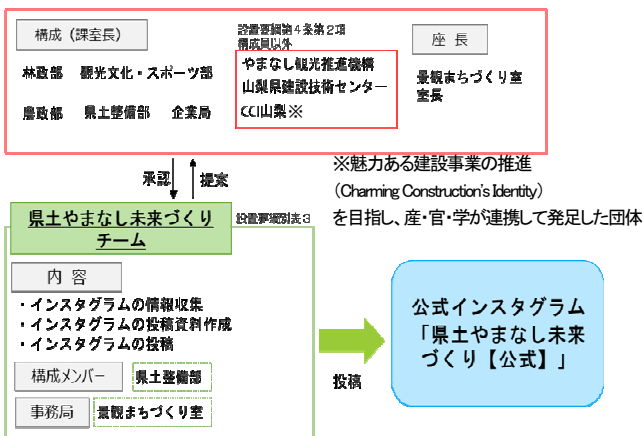


図-1 やまなしインフラ魅力発信協議会 組織図

2. 業務の課題【フォロワーが増えない】

Instagramには、閲覧の指標としてフォロワー数というものがある。「県土やまなし未来づくり」のフォロワー数は、2022年度末が1,300人、2023年度末は2,300人であった。例年と同様であれば、2024年度中で約1,000人(約90人/月)増えると想定していた。

しかし、4月~7月の4か月間で増えたフォロワー数はわずか40人(約10人/月)であり、大幅に伸び率が減少した。当時インターンで当室に来ていた大学生に、投稿内容について意見を求めたところ、「このインスタでは、我々の年代は見ないですね。インスタは動画がないと見ないですよ。」という意見であった。

(1) フォロワーが増えない問題点と解決への計画 (P)

インターン生の意見を踏まえ、若年層の閲覧数を増加させる方法を整理した。

○問題点

- ・提供された写真、原稿をそのまま投稿(図-2)
- ・内容が充実していても、若年層は見ない



図-2 これまでのインスタ投稿

○解決への課題

- ・ 投稿する動画の内容
- ・ 投稿内容の提供元所属に動画作成依頼
→ 職員の負担増
- ・ 仮に動画を投稿してもらいにしても、明確な内容が決まっていない

(2) 解決課題の取組 (D)

提供された写真を有効活用しようと考え、写真を動画にして投稿することにした。

視覚的に情報が伝わりやすく、若者に好まれるInstagramのリーク動画を作成し投稿した。(図-3)

(3) 取組成果の確認 (C)

動画を作成して1ヶ月が経過し、フォロワー数を確認したところ、微増であり大きな手ごたえがない結果であった。その原因の一つとして、閲覧の年齢層があった。図-4 に示すように、40 代後半の年齢層が圧倒的に閲覧しており、若年層には届いていないという状況であった。



図-3 初期に作成したリーク動画

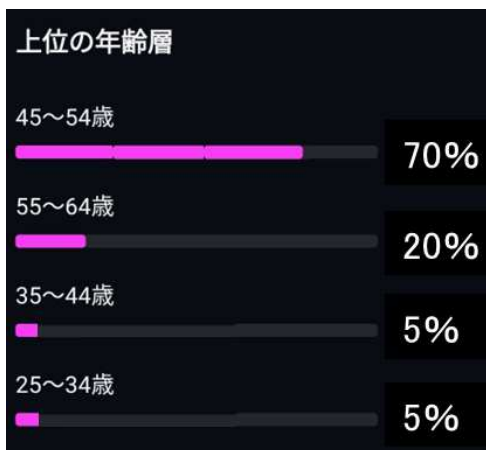


図-4 閲覧年代データ

(4) 計画の修正 (A)

Instagramは若年層が情報収集で閲覧するアプリであり、若年層の多くに閲覧してもらえなかったら、フォロワーも増加すると考え、若年層が見るような動画の作成を検討した。

(5) 若年層の閲覧数を増やすための問題点と解決への計画 (P)

○問題点

- ・ 土木工事の内容がわかるよう、工事の流れを説明した動画を作成したが、フォロワー数は微増
- ・ 閲覧する年代も 45~54 歳が圧倒的な割合で、最も見てもらいたい若年層に届いていない

○解決への課題

- ・ いかにして若年層の感性を知るか
- ・ 若い人たちの意見を聞かないとわからないのではないか。
- ・ どうやって意見を求めていくか。
- ・ 若手職員に聞いたとしても、職場目線が強くなるのではないか。

(6) 解決課題の取組 (D・C)

若年層の意見を取り入れるため、令和6年9月末、甲府工業高校協力の下、Instagramのアンケートを実施し、47名の生徒から回答を得た。

Instagramの写真や動画の内容・インフラに対する理解についての問いでは、9割の生徒から(やや)わかりやすい、インフラに対する理解が(やや)深められるという回答を得た。しかし、若者が見てくれそうかという問いには、見るという回答が2割しかなく、現状の内容では、若年層に届かないということが確認できた。(図-5)

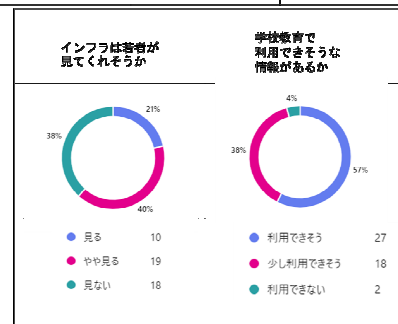
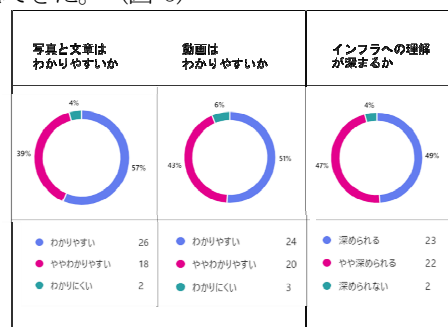


図-5 インスタアンケート結果

また、アンケートでは以下の3点についても、意見を求めた。

問1) インフラ（社会資本整備）に対する理解を深めてもらうには何が必要か。

回答)

- ・面白そうと思わせること
- ・子供たちとのイベントをつくること
- ・よりわかりやすく説明することと身近に感じることができるようになること
- ・気軽にのぞけるイメージを強化する

問2) 若者たちが見るには何が必要か。

回答)

- ・作業中の写真
- ・興味の有無に関係なく、一般の高校生でも興味を持ちやすい内容にする
- ・ショート動画に力を入れる
- ・流行の曲を取り込むなど、見て楽しいものにする
- ・真面目、勉強にはなるが、気軽に見たいとは思えない

問3) 学校教育で利用するには何が必要か。

回答)

- ・完成した道路やトンネル等があると、重要性、利便性等が理解しやすい
- ・動画投稿の増加
- ・現場写真



目的を簡潔に表現

絵文字で気軽なイメージ



必要最低限の内容

堅いイメージを払拭

図-6 高校生の意見を取り入れたリアル動画（抜粋）

(7) 計画の修正 (A)

高校生から得た意見をインスタグラムへどのように反映させるか検討した。

(8) 高校生からの意見を取り入れるための問題点と解決への計画 (P)

高校生からの意見を下に、主な問題点を以下に示す。

- ①気軽にのぞけるようなイメージ
- ②インフラの重要性、利便性が伝わる内容
- ③よりわかりやすい説明

上記3点を解決するのに必要な課題を示す。

- ①気軽にのぞけるようなイメージ
⇒ 堅いイメージの払拭
- ②重要性、利便性
⇒ 目的を表した資料の収集
- ③わかりやすい説明
⇒ 内容・表現の検討

(9) 取組成果 (C)

10月中旬から高校生の意見を取り入れた動画（図-6）を投稿した結果、フォロワー数が2か月で200人増加した。また、閲覧する年齢層にも変化があり、25～44歳の方の閲覧数が増加した。そして閲覧数における女性の割合が全体の約3割まで増加した。（図-7）

PDCAを繰り返すことで、「やまなしインフラ魅力発信協議会」の目的である、山梨県内のインフラの価値や魅力を情報発信し、インフラへの理解を深めることに、少なからず貢献できたと考えられる。



図-7 インスタ取組成果

(10) 今後の課題【次のステップへ】 (A)

これまでインスタグラムの投稿に携わり、インフラがより一層身近に感じられるインスタグラムにするには、次のような問題がある。

- ・現在のインスタグラムは事後的内容が多い。
(〇〇工事を実施しました。等)
- ・表情がある投稿が少ない

この問題解決には、2点挙げられ、職員の協力が不可欠である。

①リアルタイムの情報を提供

利用者は情報収集の手段としてインスタグラムを閲覧しているので、リアルタイム情報がフォロワーや閲覧数の増加に繋がるのではと考える。

例えば、春は冬季閉鎖解除状況、夏は草の状況、秋は落ち葉・側溝清掃状況、冬は道路凍結対策状況といった季節ごとのになるリアルタイムな情報を手軽に入手できるようになれば、多くの人に見てもらいやすくなり、結果として建設産業の担い手確保にも結び付くと考える。

②現場で働く人の表情と声を届ける投稿

投稿を確認すると、圧倒的に人の表情が映っている投稿は閲覧数が多い傾向にある。懸命にインフラを整備・管理する人の姿や、現場で携わる人達の感想を添えた投稿ができれば、閲覧者の関心をより強く惹き付けることができると考える。

3. おわりに

本論文を作成するにあたり、インスタグラム投稿に日々御協力いただいている職員の皆様に深く感謝を申し上げます。そして、アンケート調査に御協力いただいた甲府工業高校の皆様に、深くお礼を申し上げます。

インスタグラムの投稿を工夫することで、インフラの価値や魅力をより多くの人に発信できることが分かった。この取り組みが、建設業の担い手確保に繋がる一助となれば幸いである。